

労働基準監督官

Labour Standards Inspector

首都東京で働く人
のために。



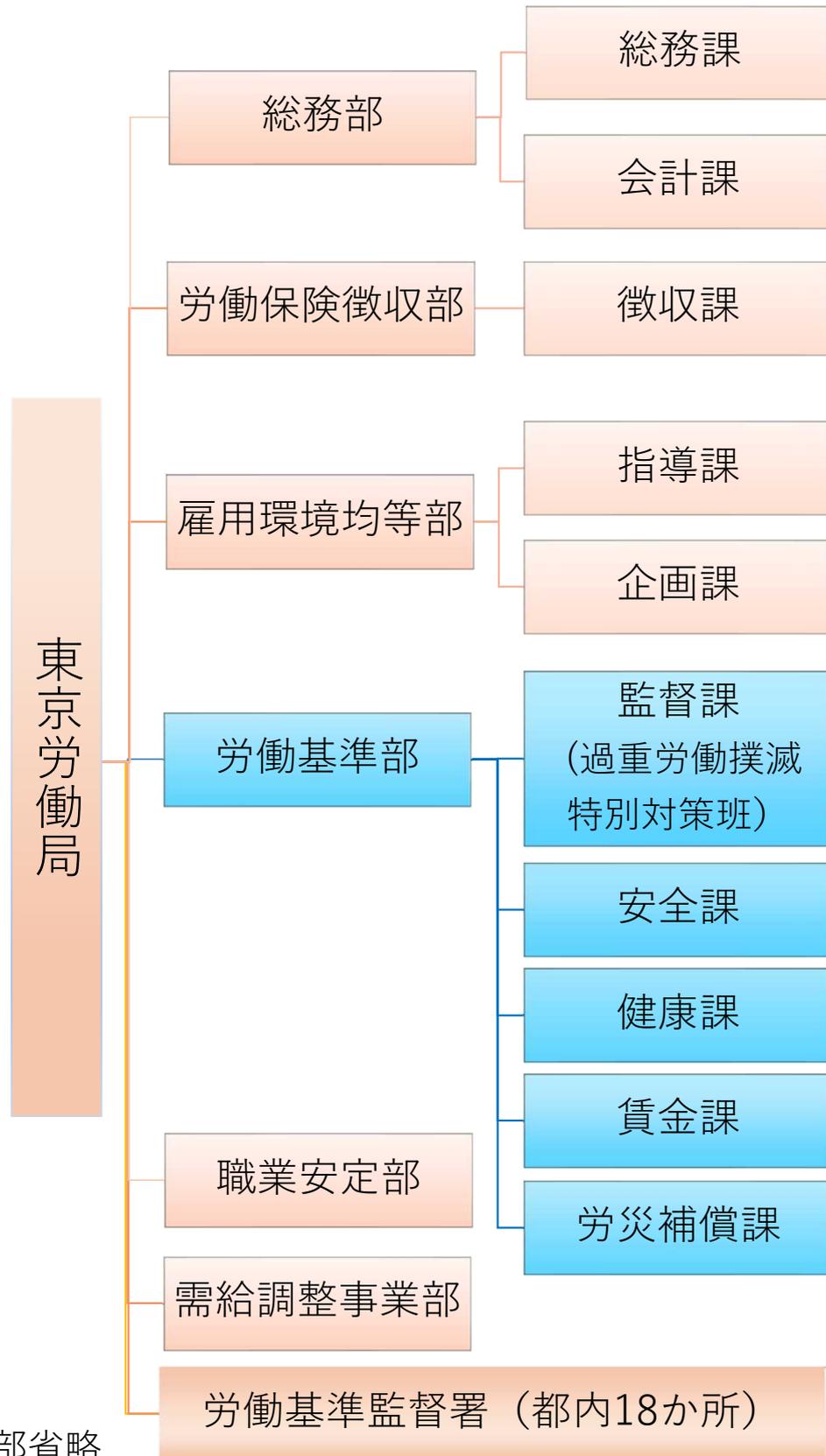
東京労働局

東京労働局の労働基準監督官は、東京都内にある約63万の事業場で働く約960万人の労働者のため、労働基準関係法令に基づいてあらゆる職場に立ち入り、法令で定める基準を事業主に守らせることにより、労働条件の確保・向上、働く人の安全や健康の確保を図ることを任務とする厚生労働省の国家公務員（専門職）です。

監督官の仕事の詳細はこちら！



東京労働局の組織



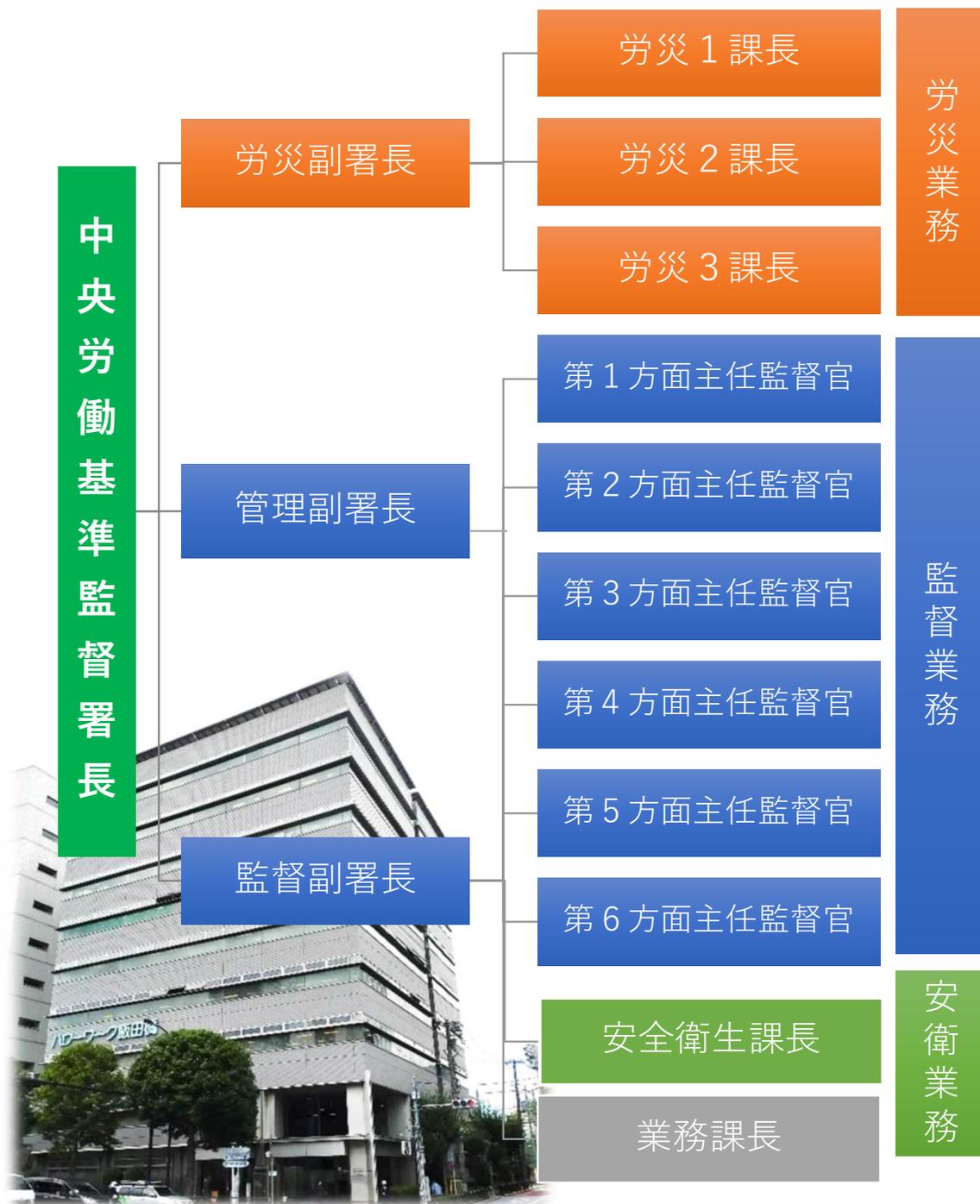
※一部省略

厚生労働省の地方組織である「東京労働局」(6部17課制)は東京都内全域を管轄とし、全国最大規模の労働局となります。

また、都内18か所に労働基準監督署(支署)が設置されており、配属された多くの労働基準監督官が地域の労働条件確保のための活動を行っています。

労働基準監督署の組織

《組織図：（例）中央労働基準監督署》



※労働基準監督署の規模により、
部署名や部署数等が変わります。

厚生労働省の第一線機関である「労働基準監督署」には、担当部署として
『監督業務』を行う【方面】
『安全衛生業務』を行う【安全衛生課】
『労災業務』を行う【労災課】
があり、方面を中心にそれぞれの部署に労働基準監督官が配属されています。

東京労働局の監督官

仕事の充実感とやりがい

東京労働局管内には、中小零細企業から大企業本社まで様々な会社があり、業種も多種多様で、幅広い企業が監督対象となっています。

東京都内における資本金10億円以上の企業数は約3,000社と全国の50%以上、経済規模は日本のGDP20%以上を占めているなど、東京都は日本経済の中心となっており、その東京都の労働行政を担っているのが、

「東京労働局」

であり、行政活動による影響は全国に及んでいます。

そのため、東京労働局における労働基準監督官の仕事は、重大かつ困難なもの、社会的に注目されるものなどが多く、プレッシャーもありますが、その仕事を完遂させたときには大きな充実感を得ることができます。



組織力

東京労働局の組織は全国最大であり、都心部にある労働基準監督署では一つの署で数十人の労働基準監督官が配属されています。

複雑困難事案等への対応に当たっては、その組織力を生かすことにより、解決に向けて対応することができます。

違法な過重労働の捜査を行う「過重労働撲滅特別対策班」（東京かとか）が設置されています。



社会的影響の大きさ

大手企業本社に対する監督指導の結果、全社的な改善が図られ、全国にいる多くの労働者の労働条件が改善されることがあります。

労働基準監督官からの指導による改善結果等を大手企業が自ら公表するなどにより、その内容が報道されることがあります。

整理解雇等で多数の労働者が解雇される恐れがある事案への対応や、全国展開している企業が経営不振によって多数の労働者が賃金不払となる事案への対応等が求められることがあります。



東京労働局の監督官③

様々な場所へ

都心部を中心とした大企業本社から下町地区に多くある中小零細企業まで、様々な規模や業種の企業が臨検監督の対象となります。

ランドマーク的な大規模建築物の建設現場などに対して、臨検監督を行うことがあります。



中央労働基準監督署では伊豆諸島も管轄となっています。また、本人が希望すれば、小笠原諸島（小笠原総合事務所）での勤務の可能性もあります。

充実した研修①

東京労働局では、労働基準監督官のスキルアップのため、厚生労働本省の中央研修のほか、局独自の研修（演習・）を数多く行っています。

臨検監督・模擬演習

- ベテラン監督官を会社側担当者に見立てた演習を通じて、臨検監督のやり方を学びます

司法事件捜査研修

- 東京かとかの特別司法監督官による研修を実施しており、実況見分や取調べなどの模擬演習による捜査手続の習得、また、デジタルフォレンジックといった捜査手法も学べます。



充実した研修②

申告監督・模擬演習

- ベテラン監督官を労働者や会社側担当者に見立てた演習を通じて、申告処理の手法を学びます。

化学工業研修

- 石油化学コンビナートに赴き、化学工業における安全管理等について学びます。

建設現場研修

- ベテラン監督官が建設現場にマンツーマンで同行し、建設現場の安全管理等に係る監督指導のノウハウを学びます。
- 民間の研究施設を利用した安全対策のVR体験研修も実施しています。



充実した研修③

プレス工業研修

- プレス機械を使用している工場に赴き、プレス機械や工場内における安全管理等について学びます。

林業研修

- 実際の林業の現場に赴き、実際に作業を行っている方などから安全対策等について学びます。



港湾荷役研修

- 荷役作業が行われている港に赴き、港湾作業（船内・沿岸）における安全管理等について学びます。

※そのほかにもOJTを含め、数多くの研修を実施し、監督官のスキルアップに努めています。

生活面での魅力

- 基本的に都内での勤務なので局内異動による転居が不要。(埼玉・千葉・神奈川などから通勤している職員多数。)

転居が基本的に
不要



- 東京23区内の勤務だと「地域手当」として俸給の20%の手当が加算。

地域手当の
支給



- 地下鉄等公共交通機関が充実しているので、仕事の時もアクセスしやすく便利。

公共交通機関
が充実



- 年次有給休暇
取得日数
年間約18日
(令和6年実績)

ワークライフ
バランス①



- 芸術・文化・流行に触れる機会が多い。
- お店や物が豊富。
- 活気のある街。

充実した
生活環境



- 育児休暇取得率
女性100%
男性100%
(令和6年度実績)

ワークライフ
バランス②



受験者へのメッセージ①

- 私は前職で民間企業(営業)と地方公務員の経験がありますが、労働基準監督官ほど個人の力を成長させ、ワクワクする仕事はなかなかないのではないかと思います。

まだ1年しか労働基準監督官としての経験はありませんが、この仕事は裁量が大きく、社会的にインパクトもあり、また知的好奇心も満たせる仕事だと感じています。普通のオフィス、建設現場、工場、山林など、労働者が一人でも働いていればどんな職場の方とでも接する可能性があり、これほど多様な業種の方々と接する仕事というのは非常に稀有だと思います。

合格されて一緒に働けることを楽しみにしています。

- 東京労働局では先輩の労働基準監督官も多く、いろいろな先輩監督官の監督指導に同行させてもらえる機会に恵まれています。

また、先輩の労働基準監督官からは監督指導の手法などを直接学ぶことができ、非常に勉強になりますし、仕事をするうえでの安心感もあります。

労働基準監督官は、労働者や使用者の双方の立場になって物事を考える必要があるため、大変ではありますが、法違反が是正されたときには、やって良かったと思える職業だと思います。

- 労働基準監督官は、労働者や使用者の双方の立場になって物事を考える必要があるため、大変ではありますが、法違反が是正されたときには、やって良かったと思える職業だと思います。
- 職場の雰囲気は本当にアットホームで、分からないことがあっても気軽に相談できます。
分からないことだらけでも、日々成長を感じることができる職場です。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！
- 実際に現場で働くと、その職責の重要性和やりがいとが予想以上であることを肌で感じることができる仕事です。
また、分野にとらわれず、広く社会を知ることができます。試験も焦らず、足元をしっかりと固めれば怖くないと思います。皆さんと一緒に働けることを心待ちにしています！
- 労働基準監督官は、労働者や使用者の双方の立場になって物事を考える必要があるため、大変ではありますが、法違反が是正されたときには、やって良かったと思える職業だと思います。

なぜ東京労働局なのか？

- 説明会で「東京は本社が多く、本社を指導すると地方の支社を指導することにも繋がる」と聞き、東京労働局の労働基準監督官の影響力の大きさが魅力だと感じたため。
- 1番大きくて難しい仕事ができそうであり、人気で第一志望にしないと後からは受けられないだろうなと思い、チャレンジの気持ちで第一志望にした。
- 東京で労働基準監督官の仕事をすることで、より多くの労働者の方たちが安心して働くことができる社会へ、少しでも近づくことに貢献できるのではないかと考えたため。
- 東京出身者だけではなく、私のような地方出身の労働基準監督官もたくさんいると聞いて、自分も東京でやっていきたいと考えたため。
- 東京で労働基準監督官としての経験を様々な事案でより早くたくさん積みたいと考えたのと、人口に対する労働基準監督官数が少ないのでその力になればと思ったため。

若手監督官アンケート結果②

- 女性の労働基準監督官が多く、様々な役職で活躍していると聞いて、東京で働くことで自分も成長して活躍できると思ったため。
- 説明会に参加して、働いている人がいきいきとしていて、ここで成長して頑張りたいと思ったため。
- 私が受験をした時期には、東京の大企業が送検されたニュースが数多く報じられており、東京を選べば大きな仕事ができると思ったため。
- 企業数が一番多いため。また、過重労働撲滅特別対策班があり、いずれはそこで活躍したいと思ったため。
- 地方出身ですが、東京での仕事にあこがれていたことや、東京でしかできない労働基準監督官の仕事があると思ったため。
- 東京局は採用者数が多く、同期たちと切磋琢磨することが出来、自分が一番成長できる局だと思ったため。
- 東京出身で、地元の企業や労働者のために働きたいと考えたため。

東京労働局における採用

採用試験の流れ



東京労働局で働く労働基準監督官は東京都出身者だけではなく、全国各地からの出身者も多く、様々な職業経験者もいます。

また、東京労働局での採用は難しいと思われがちですが、ほかの労働局と比べて採用人数も多く（これまで毎年20名程度）、同期や同世代の労働基準監督官たちも多数いるため、お互いが切磋琢磨し、労働基準監督官として成長する機会に恵まれています。

首都東京の「働き方改革」最前線へ！

東京労働局における採用

東京労働局の労働基準監督官として採用になると、都内18か所の労働基準監督署（支署）での勤務になります。

その後、入省3年目になると他局で2年間勤務、5年日以降は原則、東京労働局管内（労働基準監督署又は労働局）での勤務となります。

採用～2年目

東京労働局内の労働基準監督署で勤務（監督業務）

3年目～4年目

東京労働局以外の労働局で勤務 ※厚生労働本省への異動（4年間）もあります。

5年目～14年目

東京労働局内の労働基準監督署や労働局で勤務（本人の能力や適性により監督・安全衛生・労災等の業務に従事）

15年日以降

東京労働局内の労働基準監督署や労働局の幹部職員として勤務（方面主任、課長、副署長、署長等）

東京労働局での
【労働基準監督官の採用】
に関してのご質問は、
東京労働局
総務部総務課 人事第2係
電話03-3512-1052
まで、お問い合わせください。

また、東京労働局での
【労働基準監督官の業務】
に関してのご質問は、
東京労働局
労働基準部監督課
電話03-3512-1612
まで、お問い合わせください。

※ご質問は随時受付しています。
受付時間

【平日 8:30～17:15】

(12:00～13:00は除く)

